

# 卒業、修了



学生であるが故にある心のゆとり。  
それを忘れず、十分に考えながら  
医療をしていきたい。

## 嗚呼、素晴らしき学生生活

理学部数学科

小野塚 真紀

あっという間の四年間だった。勉強はテスト前にするくらいで、あとは友達と遊んで、バイトをしてみたり、そんな四年間だった。学校に行きたくない日もあった。それでも私は学校が好きだった。学校に行けば友達がいるし、学食のご飯は美味いし、なにより学校には楽しいと思えるなにかがあった。

大学に入学する前、大学生になったらあれこれしようと思いつめていた。あんなにがんばって勉強しようと思っていたが、勉強はあまりしなかったと思う。残るのはテスト勉強がなかったことと、授業が長かったことのみ。思いが達成できたかどうかは、自分でも疑問である。それでも「よくやった」と自分をほめてあげようと思う。

学生って素晴らしい！このことが大学生活で一番感じたこと。私はあと二年間の学生生活の猶予を求めて、大学院に進学します。今度こそ勉強をしよう。さて、このことは達成されるのでしょうか？



学校に行けば友達がいるし、  
学食のご飯は美味いし、  
なにより学校には楽しい  
と思えるなにかがあった。



## 心のゆとりを忘れずに

医学部医学科6年

栗田 学

今、我々は学生であるが故の心のゆとりがある。講義に出席し、テストに合格すること以外は「義務」がないからである。

部活、バイト、趣味に明け暮れた6年間。楽しい、楽しい学生生活だった。



僕らは4年の終わりから、病院実習で実際の医療現場を見学することができた。先輩の先生方はとにかく忙しそうだった。学生は担当患者さんが1人であるが、医師になると何人もの患者さんを診なくてはならない。

忙しいばかりであると、自分のことで精一杯になり、患者さんのことまで考えられなくなる。それでは良い医療ができるはずもない。

僕らは来年から人生で一番忙しいである

う研修医時代に入ります。学ばなければいけないことが山ほどある時に、効率を要求される。

学生であるが故にある心のゆとり。それを忘れず、充分に考えながら医療をしていきたい。卒業するにあたって一番切に願うことである。

## 卒業にあたって

歯学部歯学科6年  
出口 知也

歯科医師国家試験まで100日をきった、2002年12月下旬に、「卒業にあたって」という内容で、本誌の原稿の依頼がありました。試験勉強や卒業祝賀会準備、臨床実習引継などに追われる毎日で、文章を書く準備は全くと言っていいほどしていませんでした。しかし、その方が、現状を反映した「生々しい」文章が書けると思い直し、ペンをとった次第であります。

私に限ったことではありませんが、歯学部6年生の秋～冬は、まず何よりも、「国家試験」のことで頭が一杯であるように思っています。6年間の学生生活においても様々な出来事がありました。過去を振り返っている余裕はほとんどありません。

国家試験が終わり、桜が咲く頃になれば、少しは昔のことを思い起こすゆとり



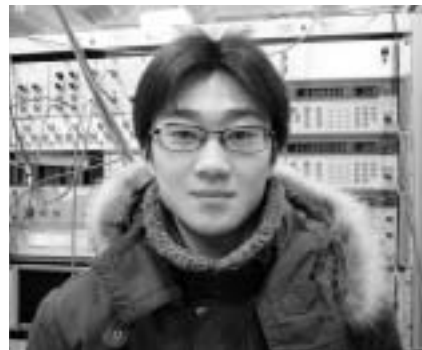
もできるであろうと思われま。個人的なことですが、私は大学院に進学し、来年度（平成15年度）も本学に残る予定です。その頃に、本誌に投稿する機会をいただければ、もっといろいろと書けると思います。

今回はこれで失礼させていただきます。すみません……。

## 卒業にあたっての思い

工学部機能材料工学科4年  
星野 友孝

私は当初この学科に入ったことを、とても後悔していました。授業は退屈で、寝るか、さぼるか、途中で抜け出すかのどれかでした。それは私に目的が無かったからです。一方、部活や遊びでは、充実していたと思います。しかし必死で働いて仕送りする親や、高校を卒業して就職した妹や友達のことを考えると、いつも自分が情けなく思っていました。大学2年の春休み、インドのガンジス河で10歳くらいのボート漕ぎの少年と仲良くなり、わらでできた家に招待されました。「お兄ちゃん、学校で何を勉強してんの？ 僕お金ためて学校行きたいんだ。」私はショックで、その時自分の今までの学校生活を考えさせられました。受験に失敗したことでずっとマイナス思考だったことに気づき、そしてそんな私に目的を持つきっかけを与えてくれたその少年との出会いは、この4年間の中で一番大切な思い出です。



「お兄ちゃん、学校で何を勉強してんの？ 僕お金ためて学校行きたいんだ。」  
私はショックで、その時自分の今までの学校生活を考えさせられました。



国家試験が終わり、桜が咲く頃になれば、少しは昔のことを思い起こすゆとりもできるであろうと思われま。